

にのみや学園通信

R6.6.28

第14号

選挙出前授業

6月、二宮町内の一色小学校と二宮小学校で二宮町選挙管理委員会による選挙出前授業が実施されました。子どもたちは、本番と同じような環境で、模擬投票を行い、選挙を体験しました。18歳から与えられる選挙権は、国民が有する大切な権利です。今回の授業に込められた願いは次のとおりです。

①選挙の仕組みを学ぶ

子どもたちが選挙権を有したときに、自信をもって投票できるようになってほしい。

②社会の一員としての役割を学ぶ

よりよい社会をつくっていくためには、みんなで意見を出し合うことが大切です。ぜひ、社会の一員であることを自覚して、自分ごととし、参加すること、積極的に関わることを大事にしてほしい。

③意見を持つことの大切さを学ぶ

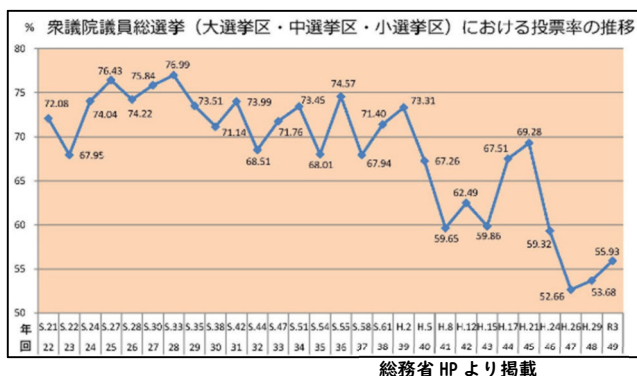
模擬投票を通じて、自分の一票が選挙結果に反映され、社会が動いていくことを実感したと思います。自分の意見を持ち、それをしっかり伝えることを大事にしてほしい。

②、③については、18歳を待つことなく、学校や地域など、身のまわりのコミュニティをよりよくするために、今からでもさっそく実践していけそうですね。

先日、脳科学者の茂木健一郎さんの講演会を聞く機会がありました。茂木さんも、「これからは、自ら判断し、選んでいく力が必要となる。」「海外から日本を見つめて、日本には良いところがたくさんあることに気付いてほしい。」とお話されていました。

海外には、投票しないと罰則を与えられる国もあります。日本は、国民一人一人の意思に委ねられていて、罰則はありません。一方で、投票率が年々低下していることは課題になっています。

よりよい社会の創り手を育成していく上で、貴重な体験となりました。今後も地域や行政等と連携した教育活動を大事にしていきたいです。



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



二宮西中と二宮中の卒業生が‘ケニア共和国’でつながる

今年3月のこと。

「お久しぶりです。実は今、国際協力 NGO で働いており、ケニアのナイロビに住んでいます。古澤さんと連絡を取りたいのですが～」と学校のメールに二宮西中学校卒業生の遠藤さんからメッセージが二宮中学校長宛に届きました。聞けば遠藤さんは、昨年7月より JICA 青年海外協力隊員としてケニア共和国に派遣されている二宮中学校在籍の古澤教諭のことを学校 HP で知ったそうです。

古澤教諭はケニア山麓での生活にすっかり慣れ親しみ、その大自然を満喫しながら、年中～中学2年生が600名ほど在籍している公立初等学校で主に算数・数学を教えています。

一方、遠藤さんは、国際協力 NGO ワールド・ビジョン・ジャパンの駐在員として昨年3月よりケニアで水・衛生改善事業に携わっています。そして同じ二宮町出身の古澤教諭が近くにいることを知り、何か協力できることはないかという思いが募って連絡をくれたのでした。

その後、二人はナイロビで会うことができました。古澤教諭は二宮中学校の卒業生。小・中学校は違えども同時代に野球部で活動していたという共通点もあり、幼少期から過ごした‘ふるさと二宮町’に思いを馳せながら、遠いケニアの地で親交を深めることができたようです。

教室がケニアとつながる



遠藤さんが見た学校 HP の記事は、今年2月に古澤教諭が二宮中学校1年生社会科の授業にオンラインで登場したことについてのものでした。「世界の様々な地域」の自然環境・歴史文化・経済を学習している1年生は、ケニアの自然環境、文化の特徴や日本政府の具体的な支援の状況について知り、ケニアが辿ってきた歴史や日本とのつながりについて考える契機にもなりました。

(←ケニアの学校から元気な姿を見せる古澤教諭に、画面越しに質問をしている二宮中の生徒)

中学生が卒業生とつながる

そして今年の6月。遠藤さんは一時帰国中に二宮中学校を訪れ、3年生社会科の授業で国際協力のあり方について講義してくださいました。3年生は、高層ビルが立ち並ぶケニアの首都ナイロビや日頃彼が支援活動をしているケニア西部のマングガ地域のスライド等も見ながら、途上国の人々が直面している水・衛生問題、それらに対する国際協力のあり方について学びました。彼自身も中学生の時に海外協力経験者の話を聞き、国際貢献に興味を持ち始めたことがその後の進路選択につながったということです。自分の夢を叶える(↑「安全な水とトイレを世界中に!」と語る遠藤さん)ために努力を重ねて生きてきた彼の人生観にも触れることができた有意義な時間となりました。

長年抱いた夢を実現して国際協力という仕事に携わり、人々がより良く生きられる未来を目指し、日本を離れて日々活躍している二宮町出身の頼もしい若者二人をたいへん誇りに思います。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



生徒指導提要とは？

「生徒指導提要」とは、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、時代の変化に即して網羅的にまとめ、生徒指導の実践に際し教職員間や学校間で共通理解を図り、組織的・体系的な取組を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として作成したものです。平成22年に初めて作成して以降、いじめ防止対策推進法等の関係法規の成立など学校・生徒指導を取り巻く環境は大きく変化するとともに、生徒指導上の課題がより一層深刻化している状況にあります。こうしたことを踏まえ、生徒指導の基本的な考え方や取組の方向性等を再整理し、今日的な課題に対応していくため、12年ぶりの改訂を行い、令和4年12月に公表しました。（文科省HPより引用）

積極的な生徒指導の充実

生徒指導提要の改訂ポイントはいくつかありますが、その一つに「積極的な生徒指導の充実」があります。生徒指導と言えば、課題が起き始めたことを認知したらすぐに対応する、または、困難な課題に対して組織的に取り組むイメージがありますが、今回の改定で示された「積極的な生徒指導」とは、問題行動等の未然防止に向けた予防的な対応、児童生徒の成長を促す肯定的なかかわりを意味します。

にのみや学園では、生徒指導提要で示されている「重層的支援構造」を参考に、すべての児童生徒を対象とした予防的対応（積極的な生徒指導）、ケースに応じた個別の対応を組み合わせ、重層的に支援することで、誰一人取り残さない教育の実現を目指しています。

重層的支援構造モデル

にのみや学園の取り組み

特定児童生徒

高

困難課題対応

即応的
継続的

対象

課題性

課題早期対応

低

発達支持的対応

全ての児童生徒

常態的
先行的

- 教育支援室の柔軟な運営
- 訪問型支援（一部）
- 町内ネットワーク会議
- 通級指導教室の拡充
- 校内教育支援Cの全校配置
- 教育相談体制の充実
- スタートカリキュラム
- 小中一貫教育の推進
学級づくり、子どもの交流

生徒指導の重層的支援構造モデルと町の施策との関係図

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



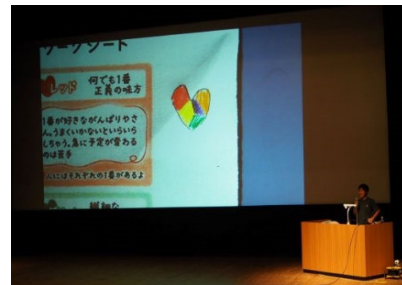
にのみや学園小学校交流会

9月5日（木）にラディアンのホールで行われた「にのみや学園小学校交流会」。町内3校の6年生が、明星大学教育学部教授の星山麻木先生によるワークショップ「自己理解・他者理解」に参加しました。この交流会は、昨年度開校した施設分離型小中一貫教育校「にのみや学園」のプロジェクトの一環で行われたものです。

最初に、星山先生から、7色の子どもたちそれぞれのタイプ（「なんでも1番 正義のみかた…レッドくん」、「すばやく動く 人情家…イエローちゃん」など）について、説明を受けました。その後、子どもたちは、「この色はぴったり自分に当てはまる。」「この色は少し自分に当てはまるところがあるかな。」「この色は自分に当てはまらないな。」などと考えながら、ハート形の枠の中を「自分にあてはまる」と感じた色でぬっていきしました。どの子も自分のことをじっくり見つめ、自分に当てはまるタイプについて真剣に考えていました。

最後は、3校の6年生が一緒になったグループで、ぬった色について交流しました。7色すべてをぬった子もいれば、2色だけをぬった子もいるなど、それぞれでした。

この交流会によって、自分のことを理解すること、友達のことを理解すること、そして自分と友達との違いについて理解することにより、自分らしい生き方、仲間との人間関係の築き方について考えるきっかけになりました。



にのみや学園小中学生交流会

9月25日（水）に「にのみや学園小中学生交流会」が行われ、町内3校の6年生が、進学予定のそれぞれの中学校を訪問しました。この交流会も、「にのみや学園」のプロジェクトの一環で、年3回（9月、10月、2月）予定されています。ねらいは、「高学年の児童が進学予定先の中学校に行き、授業参観や部活動体験（見学）を行うことで、中学校への滑らかな進学を図ること」です。

本通信では、二宮中学校を訪問した二宮小学校の6年生の様子をお伝えします。

当日は、まず始めに、教科の授業の様子や夕鳴祭「文化の部」に向けて学級ごとにスタンドグラスを制作している様子を参観しました。実際に教室の中に入って参観をすることができたので、中学生の授業に取り組む様子や文化祭に向けて学級が一つになっている様子を間近で感じる事ができたようです。

次に行われた学校案内では、生徒会本部役員から、校舎内の様子や中学校生活についての説明がありました。6年生からは、時間内で終わらないほどの質問が相次ぎ、中学校への関心の高さがうかがえました。

最後に行われた部活動の見学では、笑顔を見せながらも真剣に練習に取り組む姿、作品制作に黙々と取り組む姿、部員が一つになって楽器を奏でる姿を、あこがれのまなざしで見つめていました。

交流会を終えた6年生からは、「全学年、楽しそうに授業に参加していたから緊張しないで来年入学できそう」、「授業が難しそうで小学校とは違う緊張感みたいなものがあった」、「部活動は、厳しそうなイメージがあったけれど、みんな楽しそうにやっていて大丈夫そうだったから安心した」などの感想が聞かれました。

入学まで半年のこの時期に、中学校の生活に少しでもふれられたことは、半年後の自分の姿を思い描き、どのような中学生になりたいかをじっくり考えることにつながると思います。



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



にのみや学園特別支援学級交流会

11月6日(水)、二宮町立体育館にて、にのみや学園特別支援学級交流会を開催しました。今年度は70名の小中学生が参加しました。二宮小、二宮中からの出し物「ボッチャ」「パラシュート」「オセロ」は、どれも楽しく盛り上がりました。また、様々な「つながり」を感じる素敵な会となりました。

●小学生と中学生のつながり

中学生が小学生をリードする姿はさすがでした。特に6年生にとっては、来年度に向けて中学生と直接触れ合えるよい機会となったことでしょう。

●子どもたちと先生のつながり

他校に異動した先生との再会を喜ぶ子どもたち。先生も嬉しかったことでしょう。お互いに活動意欲が高まっていました。

●先生と先生のつながり

学校の枠を越えて指導したり、連携したりする先生方の姿は、にのみや学園として目指している具体の一つです。5校の職員のチームワークの良さは、にのみや学園の自慢です。

●保護者と保護者のつながり

子どもたちの取り組みを参観していただくだけでなく、保護者同士のつながりが深まる機会にもなっていました。

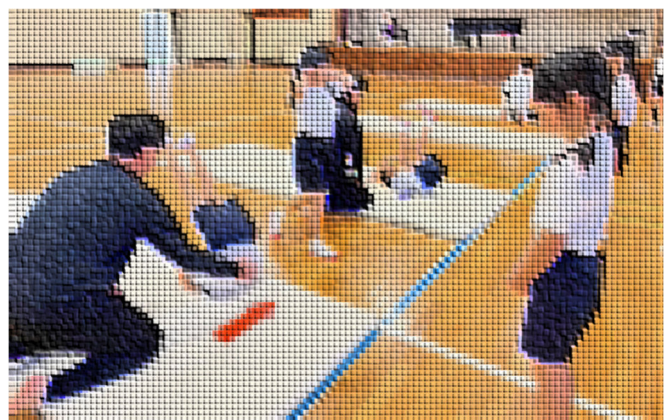


カリキュラム研究授業(体育)

11月7日(木)、一色小学校にて体育・保健体育グループのカリキュラム研究授業を実施しました。小学校の先生方に加えて、二宮中学校、二宮西中学校の保健体育科の先生方が直接マット運動を3～4年生の児童に指導しました。

子どもたちにとっては、中学校の先生から指導を受けることが出来る貴重な機会となりました。中学校の先生から教わったことをこれからのマット運動に生かしていってくれることでしょう。

引き続き、各教科グループにおいて、指導法について研究を深める活動を続けていきます。



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

